

令和8年度 主要事業計画

学園の建学の精神のもと、各学校の理念・目標を踏まえた教育研究を強力に推進する。

令和8年度においては、新たにスタートする第4次中期計画を着実に推進し、教育研究の一層の充実とガバナンスの強化を図る。特に、大学においては導入3年目となる新カリキュラムを実施するとともに、大学院の充実を図る。短期大学においては教育の一層の充実を図るほか、高等学校においては知・徳・体の育成を図る教育活動を着実に実施する。さらに、老朽化した施設・設備の改善等、学生・生徒に対する学修環境の充実を図る。

重点的に進める事項は、以下のとおり。

- (1) 内部統制システムの基本方針を踏まえ、学園の健全かつ効率的な運営に努める。
- (2) 大学及び短期大学の教学マネジメントによる教育改革を推進するほか、ICTを活用した教育や学生支援の強化を図る。
- (3) 教職員の『行動規範』の徹底と教育研究活動の充実を図る。
- (4) 卒業生にとって魅力ある学園づくりを含めた学園のブランド強化を図る。
- (5) 老朽施設・設備の改修等を計画的に実施する。
- (6) 愛知県中小企業家同友会や瑞穂区との連携協力を推進し、全学的に地域・社会貢献の取組みを強化する。

I 各学校における令和9年度入学学生・生徒の確保等

令和9年度入学の学生・生徒数

学 校 名	学則入学定員		第3年次 編入学定員	
	令和8年度	令和9年度(予定)	令和8年度	令和9年度
愛知みずほ大学大学院	15人	10人		
愛知みずほ大学	130人	130人	10人	10人
愛知みずほ短期大学	120人	120人		
愛知みずほ大学瑞穂高等学校	480人	480人		
計	745人	740人	10人	10人

- (1) 戦略的な広報及び学生・生徒募集活動を行い、定員の確保を図る。
- (2) 従来の広報及び募集活動等を分析し、入学者選抜方法を含めて工夫・改善を図る。

II 全校的共通事項

- (1) 第4次中期計画の着実な実施
- (2) 高大連携の促進及び高等学校と大学・短期大学間の教育連携の充実
- (3) 各学校における経費の適正執行
- (4) 三連動地震（東海・東南海・南海連動型地震）対策の強化
- (5) オープンアカデミー等地域貢献活動の実施

III 各学校の取組事項

1. 高等学校

(1) 探究的な学習の推進

- ・ 生徒がより主体的に探究活動ができるようなプログラムを実施する。担当教員の力量向上にも取り組む。

(2) 生徒募集活動における向上策の実施

- ・ 本校のイメージアップを図るべく、教育活動の充実と中学校訪問及び広報を強化し、本校の良さを伝える。

(3) 進路実績の向上に向けた取組みの充実

- ・ 多様な大学入試選抜方法に対応すべく、進路情報の共有を図り、生徒の特性を生かした適切な支援をしていく。

(4) 愛知みずほ大学及び愛知みずほ短期大学との高大連携の充実

- ・ 高大連携委員会との協働により、大学・短期大学の入試説明会、高大連携授業に加えて交流機会を増やし、保護者への説明も充実させる。

(5) デジタル化の推進と効果的な活用

- ・ ICT教育のさらなる充実、校務支援システム BLEND の活用の拡大、デジタル採点システムの導入による効率化などを推進する。

(6) 生徒・保護者が安心できる体制の充実

- ・ 生徒の悩みやいじめなどの早期把握と迅速な対応を徹底する。関係教員の情報共有や保護者との連携など必要な手立てを丁寧に行う。

(7) 年間行事計画の着実な実施

- ・ 体育祭の実施場所が変わるため周知の準備が必要である。また、新たに年間行事計画に追加した内容もあるため、着実な実施に努める。

2. 大学・短期大学

(1) 教学改革

○ 3ポリシーの点検・評価

【大学】

- ・ 卒業論文及び健康科学研究に向け、ゼミ活動を段階的に始動・実施し、DP・CP との対応関係、到達度、学生の学修状況を把握・評価した上で、

指導内容及びカリキュラム改善に反映する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 卒業論文に対する学生の意識調査

【短期大学】

- ・ 3ポリシーの検証を行い、卒業時成果物のルーズブック等による評価の共有と保存の在り方を検討する。また、カリキュラム及び授業改善として反映する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 ポリシー見直し・改善の実施状況

○ 教育方法の充実

【大学・短期大学共通（以下「共通」）】

- ・ 学生の学修実態を踏まえ、ノート PC の活用状況を授業・課外活動の両面から評価し、ICT 活用方針の見直し及び学修支援方法の改善に結びつける。

〈主な評価視点 (KPI)〉 授業における ICT 活用状況、学生アンケートによる有効性評価

(2) 研究力強化

○ 学園紀要構成の点検・評価

【共通】

- ・ 学園紀要への投稿内容の実態を調査し、紀要の構成や投稿ルールの改善、研究の活性化に反映する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 投稿件数・投稿者数、教員の掲載割合

○ 教員の研究力及び教育力の向上

【大学】

- ・ 健康科学演習の実施状況を点検・評価し、教育内容の改善及び FD 活動に活用する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 演習の到達度評価、FD への反映状況

【短期大学】

- ・ 卒業制作の実態調査を通じて、テーマ設定・指導体制・評価方法を整理し、教育の質保証及び成果の可視化につなげる。

〈主な評価視点 (KPI)〉 卒業制作の完成度、発表機会の件数

(3) 就職支援

○ 就職支援体制の再生強化

- ・ 活動状況を可視化し、支援体制の課題抽出と改善に継続的に活用する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 新規企業開拓数

○ 各種アンケート結果の確実な反映

【共通】

- ・ 学内企画及び各種アンケート結果を分析・評価し、改善策として整理・実行し、その効果を次年度に反映する。
- ・ 企業アンケート及び外部評価により人材ニーズを把握し、教育課程・就職支援施策へ反映する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 改善提案件数、教育課程・支援施策への反映

状況

(4) キャリア教育

○ 正課外教育の体系化

【共通】

- ・ 正課外教育の全体像を体系化し、学生が段階的にキャリア形成できる仕組みとして運用・評価する。
- ・ 入学前教育の教材整備・オンライン化を進め、初年次教育への円滑な接続を図る。
- ・ PROG 入学時データを分析し、成長指標として活用するとともに教育改善に反映する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 入学前教育受講率、PROG スコアの推移

【大学】

- ・ 初年次キャリア教育について内容及び実施形態を確定し、学修・進路意識の向上を図る。

〈主な評価視点 (KPI)〉 基礎学力到達度

(5) 入学定員の確保

○ 個別選抜の適正化

【共通】

- ・ 入学選抜区分と卒業時 GPA との相関を分析し、選抜方法の妥当性検証及び改善に活用する。
- ・ 2027 年度入試結果を検証し、2028 年度入試改善策として具体化する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 選抜区分別の修学状況、定員充足率

○ 広報活動の有効化

- ・ オープンキャンパスの実施・評価を通じて、次年度の企画改善及び志願者増加につなげる。
 - ・ 学生広報スタッフの育成を進め、学生参画型広報の質向上を図る。
- 〈主な評価視点 (KPI)〉 オープンキャンパス参加者数、志願者数への寄与

(6) 魅力ある学園づくり

○ 卒業生と在校生の相互支援

【共通】

- ・ 同窓会と連携し、卒業生と在学生の交流機会を定例化し、学修及びキャリア支援への効果を検証する。

〈主な評価視点 (KPI)〉 交流企画の実施状況、参加者数

(7) 産学官連携による学生のための実践教育

○ 共同企画による学生の社会における実践力の向上

【共通】

- ・ 産学官連携企画の実績と成果を整理し、教育効果を検証した上で継続・発展につなげる。

〈主な評価視点（KPI）〉 PBL 実施件数、学生の成果物・評価

(8) 地域貢献・社会貢献

○ 「健」に基づく活動により地域・社会への貢献

【共通】

- ・ オープンアカデミー及び本学主催の新規企画を実施し、地域への教育資源還元と社会的評価の向上を図る。

〈主な評価視点（KPI）〉 参加者数、企画数

(9) 高大連携

○ 大学・短大の保有教育資源の高校への提供

【共通】

- ・ 既存企画の継続と瑞穂高等学校との新規連携企画を通じ、高大接続の質向上及び志願者確保につなげる。

〈主な評価視点（KPI）〉 連携企画数、高校参加者数

(10) 大学院

○ 大学大学院としての適正化

- ・ 研究指導計画を可視化し、修士論文評価ルーブリックを整備することで、指導・評価の質保証と修了成果の明確化を図る。

〈主な評価視点（KPI）〉 年間指導計画の策定

IV 教育研究施設・設備等の充実

- (1) 瀬木学園図書館の改修
- (2) 大学・短期大学1号館空調機取替
- (3) 校舎（大学・短期大学1号館、高等学校本校舎）耐震対策
- (4) 老朽施設・設備等の改修等対策の策定